

平成21年9月9日

札沼線(学園都市線)の電化について

JR北海道では、札沼線(愛称名「学園都市線」)桑園・北海道医療大学間の電化を実施し、札幌圏一体となった高速鉄道ネットワークの形成を図ります。

1. 背景・目的

札沼線のうち札幌近郊区間である桑園・北海道医療大学間は沿線人口の増加に伴い、年々ご利用のお客様が増加しておりますが、札幌圏で唯一の非電化区間であり、投入している気動車も老朽化が著しく、お客様からもサービス改善を強く求められているところです。こうしたことから、札沼線のうち札幌圏輸送の使命を担う桑園・北海道医療大学間を電化することにより、札幌圏一体となった高速鉄道ネットワークを形成し、所要時分短縮、混雑緩和、冷房化率向上などのサービスのレベルアップを図るとともに、環境負荷の軽減及び経営の効率化を図ります。

2. 事業概要

1) 地上設備

工事区間	札沼線 桑園・北海道医療大学間	28.9km
	(桑園・あいの里公園 15.1km、あいの里公園・北海道医療大学 13.8km)	
工事概要	篠路変電所新設、電車線等電力設備新設、信号・通信設備改修等	
工事期間	平成21年度～23年度(予定)	
工事費	46億円(桑園・あいの里公園 35億円、あいの里公園・北海道医療大学 11億円)	
事業主体	第三セクター 北海道高速鉄道開発(株)	

2) 車両

車両費	84億円	新製車両42両 等
新製車両を含め、電車は札幌圏全体で共通運用の予定		

3. 事業効果

1) 輸送サービスの向上

所要時分短縮	46分	39分(7分)	札幌・石狩当別間の最大短縮時分)
混雑緩和	130%	104%(26%)	朝ラッシュ時における比較)、3ドア化
冷房化率向上	63%	100%(+37%)	朝ラッシュ時における比較)

2) 環境負荷の低減

CO ₂ 排出量の削減[t-CO ₂ /日]	約32	約10(22)
騒音の低減(駅停車時騒音レベル)[dB]	約80	約70(10)

4. 電化開業時期 平成24年春(予定)

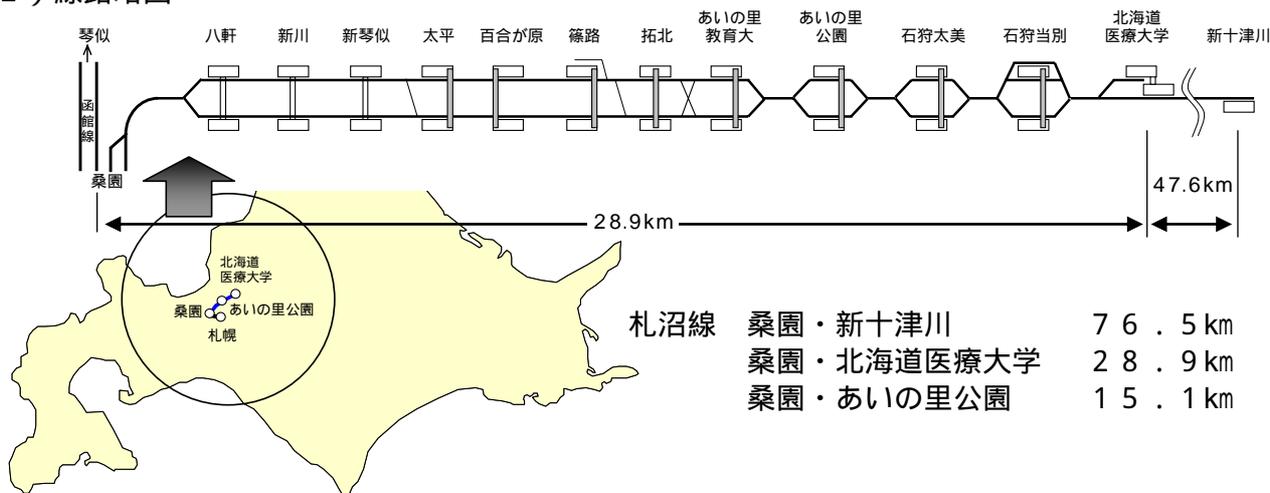
(参考資料)

1. 札沼線(学園都市線)について

1) 主な沿革

- 昭和10年10月 札沼線 桑園～石狩沼田間全線開通
- 47年 6月 新十津川～石狩沼田間廃止
- 57年 4月 大学前(現、北海道医療大学) 駅新設
- 61年 6月 百合が原乗降場新設
- 11月 あいの里教育大駅、新川乗降場、太平乗降場新設
- 63年11月 八軒駅新設
- 平成 3年 3月 札沼線の愛称名を「学園都市線」と定める
- 12年 3月 桑園～新琴似間高架化及び八軒～あいの里教育大間複線化完成

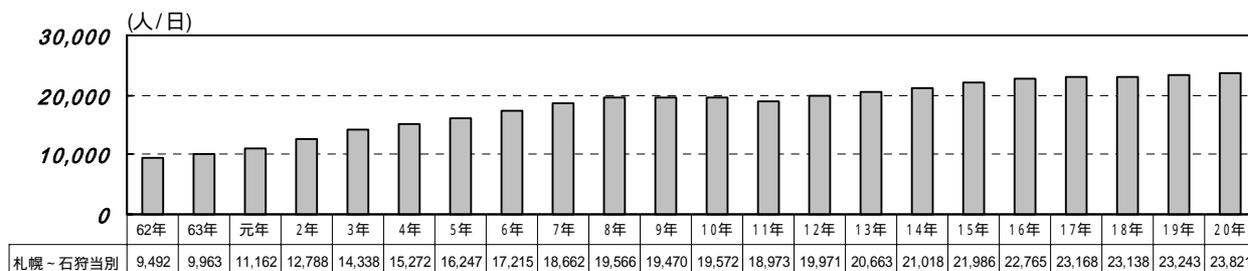
2) 線路略図



3) . 列車本数

札幌～北海道医療大学間
 62年度 : 64本
 21年度初 : 100本
 約1.6倍に増加

4) お客様のご利用状況



62年度 : 9,500人
 20年度 : 23,800人
 約2.5倍に増加

2. 第三セクター「北海道高速鉄道開発(株)」について

国の幹線鉄道等活性化事業として実施した、石勝線・根室線(南千歳・釧路間)高速化事業及び宗谷線(旭川・名寄間)高速化事業の事業主体として、北海道をはじめとする自治体と北海道旅客鉄道(株)からの出資により設立された第三セクターである。

- 設立 : 平成6年1月20日
- 資本金 : 68億960万円
- 代表取締役社長(高井修北海道副知事)